

疵黒病、易繫辭、悔吝者言乎其小疵也、山田本注首有音字、那波本同、醫心方同訓、

〔増補下學集<sup>上二</sup>〕疵<sup>アツ</sup>

〔有林福田方<sup>十</sup>〕疵<sup>アツ</sup> 瘰

皮中ニ紫ニ赤ク歴セク、穢ゲナルヲ治ス、竹中水ノ馬ノ尿ノ如クナルヲ取テ洗之、如意方ニ出、又千金方云、銀錢ヲ以テ拭之、アヅカラシムレバ、即消ス、不差、數々拭之即止、

〔瘍科秘録<sup>十</sup>〕瘰

瘰歴ハ俗ニアザト稱ス、是ハ先天ノ遺毒ト見ヘテ、生レナガラ發シテアルモノナリ、初ハ至テ微シク蚊刺タルホドノモノモ、日ヲ累子月ヲ積ムトキハ、漸蔓延シテ濶大ニナルモノ也、初生ノ兒ハ得ト改テ、若シ瘰ノアルモノハ、速ニ治法ヲ施スベシ、瘰ニ赤黒ノ二證アリテ、赤瘰ハ臙脂ヲ抹タルヤウニ赤ク發スルナリ、

〔病名彙解<sup>六</sup>〕瘰<sup>シ</sup>歴<sup>エ</sup> 俗ニ云アザノコト也、歴ハ字彙ニ云、音點、黒痕也、又云音掩、面ニ黒子アルナリ、

〔和漢三才圖會<sup>十</sup>〕瘰<sup>シ</sup>歴<sup>エ</sup> 俗ニ云アザノコト也、歴ハ字彙ニ云、音點、黒痕也、又云音掩、面ニ黒子アルナリ、

按、疵似紫癩<sup>クロナヤツ</sup>而色深、治法與癩風同、

〔東大寺正倉院文書<sup>十一</sup>〕神龜三年、山背國愛宕郡雲上里計帳、<sup>○中</sup>

女出雲臣島刀自賣、年拾壹歲、 小女

男倉麻呂、年拾肆歲、

左頰疵<sup>○中</sup> 右手於皆

〔宇治拾遺物語<sup>七</sup>〕これもむかし、天づくに身の色は五色にて、角のいろはまろきしか一ありけり、深山にのみすみて人にしられず、<sup>○中</sup> 國の大王おほくの狩人をぐして、此の山をとりまきて、すでにころさんとし給、<sup>○中</sup> 御こしの前にひざまづきて申さく、我毛の色をおそるゝによりて、この山にふかくかくれすめり、まがるに大王いかにしてわが住所をばまゝり給へるぞや